

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー

ご使用にあたって Release 1.0



Copyright © 2010, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS. Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

AMD, Opteron, AMD ロゴ, AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices, Inc. の商標または登録商標です。Intel, Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。UNIXはX/Open Company, Ltd.からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。



リサイクル
してください



Adobe PostScript

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーご使用にあたって

このマニュアルでは、Oracle の Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーの最新の情報と問題について説明します。各問題は、Service 要員の参照用に提供されている、内部の変更要求 (Change Request、CR) 番号と関連付けられています。必要に応じて、Service 要員は CR 番号を参照し、問題に関する追加情報を入手できます。

表 1

| トピック | |
|-----------|---|
| 内容 | リンク |
| 一般情報 | <ul style="list-style-type: none">• 2 ページの「Software Release 1.0 でサポートされているファームウェア」• 3 ページの「ファームウェア更新」• 3 ページの「Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーのマニュアル」• 4 ページの「Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーの Tools and Drivers DVD」• 4 ページの「Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーのサポートとパッチ」• 4 ページの「サポート対象オペレーティングシステム」 |
| 既知の未解決の問題 | <ul style="list-style-type: none">• 6 ページの「ハードウェアの既知の問題」• 6 ページの「BIOS の既知の問題」• 9 ページの「ILOM の既知の問題」• 13 ページの「仮想マシンソフトウェアの既知の問題」• 15 ページの「Oracle、Red Hat、および SUSE Linux の既知の問題」• 18 ページの「Windows の既知の問題」• 19 ページの「Oracle Hardware Installation Assistant の既知の問題」 |

一般情報

表 2

| トピック | |
|---|--|
| 内容 | リンク |
| サポートされているファームウェア | • 2 ページの「Software Release 1.0 でサポートされているファームウェア」 |
| BIOS ファームウェアで使用されている Intel Microcode と参照コードのバージョン | • 3 ページの「BIOS ファームウェアで使用されている Intel Microcode と参照コードのバージョン」 |
| ファームウェア更新のダウンロードサイト | • 3 ページの「ファームウェア更新」 |
| 最新の製品マニュアルのダウンロードサイト | • 3 ページの「Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーのマニュアル」 |
| Tools and Drivers DVD | • 4 ページの「Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーの Tools and Drivers DVD」 |
| サポート情報 | • 4 ページの「Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーのサポートとパッチ」 |
| サポートされているオペレーティングシステム | • 4 ページの「サポート対象オペレーティングシステム」 |

Software Release 1.0 でサポートされているファームウェア

[表 1](#) に、サポートされている ILOM および BIOS のファームウェアバージョンを示します。

表 1 Release 1.0 で使用可能なサーバーファームウェアバージョン

| ソフトウェアのバージョン | ILOM SP ファームウェアバージョン | BIOS ファームウェアバージョン |
|--------------|----------------------|-------------------|
| 1.0 | 3.0.9.15 | 08.01.04.05 |

BIOS ファームウェアで使用されている Intel Microcode と参照コードのバージョン

表 2 に、Release 1.0 用の BIOS ファームウェアイメージで使用されている Intel Microcode と参照コードのバージョンを示します。

表 2 Release 1.0 用の BIOS ファームウェアで使用されている Intel Microcode と参照コード

| Intel ソフトウェア | バージョン |
|--|----------|
| Intel CPU Microcode | SRV_C_87 |
| Intel RC | p2.70 |
| Intel CPU 参照コード | 1.06 |
| Intel QuickPath Interconnect (QPI) 参照コード | 1.85 |
| Intel メモリー参照コード (MRC) | 2.11 |

ファームウェア更新

サーバーには最新の ILOM および BIOS ファームウェアがインストールされて出荷されます。このファームウェアを再インストールしたり、このファームウェアの更新を入手したりする必要がある場合は、次の場所でサーバーのファームウェアを入手できます。

- <http://www.sun.com/servers/x64/x4170/downloads.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4270/downloads.jsp>

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーのマニュアル

Sun Fire X4170 M2 サーバーの製品マニュアルやこのドキュメントの更新版は、次の Oracle マニュアル Web サイトで入手できます。

<http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4170m2#hic>

注 – Sun Fire X4270 M2 サーバーの製品マニュアルは現時点では入手できません。

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーの Tools and Drivers DVD

サーバーの Tools and Drivers DVD は注文品とともに出荷されます。この DVD には、サーバーで使用するデバイスドライバ、RAID 管理ソフトウェア、およびその他のソフトウェアユーティリティが含まれています。この DVD のコピーが必要な場合、または DVD に含まれているソフトウェアの更新が必要な場合は、次の場所でサーバーの最新版の Tools and Drivers DVD をダウンロードできます。

- <http://www.sun.com/servers/x64/x4170/downloads.jsp>
- <http://www.sun.com/servers/x64/x4270/downloads.jsp>

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーのサポートとパッチ

サーバーのサポート情報とパッチは、次の場所で入手できます。

<http://sunsolve.sun.com>

サポート対象オペレーティングシステム

Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバーは、次のオペレーティングシステムのエディションをサポートしています。

- Oracle Solaris 10 10/09 以降のリリース
- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.4 9 (64 ビット)
- Oracle Enterprise Linux (OEL) 5.4 (64 ビット)
- SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 SP3 (64 ビット) および SLES 11 (64 ビット)
- Oracle VM (Virtual Machine) 2.2.1
- VMware ESX および ESXi 4.0 Update 1
- Windows Server 2008 SP2 (64 ビット)
- Windows Server 2008 R2

次に示す情報については、『Linux、仮想マシンソフトウェアの場合での Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー設置マニュアル、および Oracle Solaris オペレーティングシステムインストールガイド (821-1623)』を参照してください。

- 前述のオペレーティングシステムのインストール手順
- サポートされているオペレーティングシステムの完全なリスト

注 – Oracle Solaris 10 オペレーティングシステムは、サーバーのディスクドライブにプリインストールされたオプションとして用意されています。プリインストールされた Solaris 10 オペレーティングシステムの設定手順については、『Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー設置マニュアル (821-1620)』を参照してください。

既知の未解決の問題

表 3

| トピック | |
|--|--|
| 内容 | リンク |
| ハードウェアの既知の問題、説明、および対処方法 | • 6 ページの「ハードウェアの既知の問題」 |
| BIOS の既知の問題、説明、および対処方法 | • 6 ページの「BIOS の既知の問題」 |
| ILOM の既知の問題、説明、および対処方法 | • 9 ページの「ILOM の既知の問題」 |
| VMware の既知の問題、説明、および対処方法 | • 13 ページの「仮想マシンソフトウェアの既知の問題」 |
| Red Hat および SUSE Linux の既知の問題、説明、および対処方法 | • 15 ページの「Oracle、Red Hat、および SUSE Linux の既知の問題」 |
| Windows の既知の問題、説明、および対処方法 | • 18 ページの「Windows の既知の問題」 |
| Oracle Hardware Installation Assistant の既知の問題、説明、および対処方法 | • 19 ページの「Oracle Hardware Installation Assistant の既知の問題」 |

ハードウェアの既知の問題

表 3 ハードウェアの既知の未解決の問題

| CR | 説明 |
|---------|---|
| 6926877 | ホストの電源がオフになっているときにファンの OK/Fault ステータス LED が点灯しない |
| | 問題: サーバーホストの電源がオフになっている状態で、ファンの OK/Fault ステータス LED が点灯しない場合があります。ファンモジュール上には、2 色のステータス LED がファンモジュールごとに 1 個あります。ステータス LED は、サーバーがスタンバイ電源モードのときにも緑色 (OK) またはオレンジ色 (Fault) に点灯するはずです。 |
| | 影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none">• Sun Fire X4170 M2 サーバー• Release 1.0 |
| | 対処方法: ILOM を使用してファンモジュールのステータスを判断するか、ホストの電源をオンに戻してください。 |

BIOS の既知の問題

表 4 BIOS の既知の未解決の問題

| CR | 説明 |
|---------|--|
| 6716289 | BIOS とシステムにより表示されるメモリー量が、実際に組み込まれたメモリーより少なくなる |
| | 問題: BIOS のスプラッシュ画面およびメインの BIOS 設定メニューで、メモリー容量がインストールされている容量よりも 8 MB 少なく表示されます。 |
| | 影響を受けるソフトウェア: <ul style="list-style-type: none">• Release 1.0 |
| | 対処方法: この問題の対処方法はありません。この障害に対するパッチを入手できるかどうか確認してください。 |

表 4 BIOS の既知の未解決の問題 (続き)

| CR | 説明 |
|---------|--|
| 6898588 | SGX-SAS6-INT-Z のオプションカードを取り付けた状態で <CTRL-N> を押すと、ネットワークブートおよび SGX-SAS6-INT-Z の Option ROM の読み込みを省略できる場合がある |
| | PCI-Express SAS LSI Controller (SGX-SAS6-INT-Z) のオプションカードがシステムに取り付けられており、シリアルコンソール上で <CTRL-N> を使用してネットワークブートを開始する場合、ネットワークブートが開始されない、または SGX-SAS6-INT-Z のオプションカードの Option ROM が読み込まれないことがあります。 |
| | <p>影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> SGX-SAS6-INT-Z のオプションカード Release 1.0 |
| | <p>対処方法:</p> <p>次のいずれかの手順を実行します:</p> <ul style="list-style-type: none"> ILOM リモートコンソールを使用し、F12 を押してネットワークブートを開始する。 シリアルコンソールを使用している場合は、<CTRL-E> を使用して BIOS の「起動デバイスの優先順位 (Boot Device Priority)」メニューを表示してから、目的の PXE アダプタ (ネットワークブートデバイス) を起動デバイスの優先順位のリストの先頭に移動する。すると、PXE アダプタが起動デバイスとして使用されるようになる。 SGX-SAS6-INT-Z の オプション ROM コードの実行中、または実行後に <CTRL-N> を押す。オプション ROM コードは、次のバナーが表示されているときに実行されている。 LSI Corporation MPT SAS2 BIOS. Copyright 2000-2010 LSI Corporation. |
| 6901163 | 「EHCI BIOS のハンドオフに失敗しました」というメッセージが表示される |
| | <p>問題:</p> <p>VMware ESX 4.0 Update 1 に「EHCI BIOS のハンドオフに失敗しました」というメッセージが表示されます。失敗メッセージは dmesg の出力に表示されます。</p> |
| | <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> VMware ESX 4.0 Update 1 Release 1.0 |
| | <p>対処方法:</p> <p>このメッセージは無視してください。機能上の問題は発生しません。</p> |

表 4 BIOS の既知の未解決の問題 (続き)

| CR | 説明 |
|---------|---|
| 6925850 | Solaris の prtconf コマンドで、PCIe デバイスのスロット名とともに関連付けられた物理スロット番号が表示されない |
| | 問題: Solaris の prtconf コマンドを使用して一部の PCIe デバイスのシステム構成情報を表示したとき、物理スロット番号がスロット名とともに表示されません。たとえば、以下に示す構成情報では、最初の 2 つのスロット名には関連付けられた物理スロットがありますが、それ以外のスロット名にはありません。 <pre>% prtconf -pv grep slot slot-names: 00000001.65696370.00000034 physical-slot#: 00000004 slot-names: 00000001.65696370.00000031 physical-slot#: 00000001 slot-names: 00000001.746f6c53.00000035 slot-names: 00000001.746f6c53.00000032 slot-names: 00000001.746f6c53.00000036 slot-names: 00000001.746f6c53.00000033</pre> |
| | 影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • Solaris 10 10/09 • Release 1.0 |
| | 対処方法: この問題の対処方法はありません。この障害に対するパッチを入手できるかどうか確認してください。 |

ILOM の既知の問題

注 – Oracle Integrated Lights Out Manager (ILOM) は、以前は Sun Integrated Lights Out Manager と呼ばれていました。

表 5 ILOM の既知の未解決の問題

| CR | 説明 |
|---------|--|
| 6779289 | サイドバンドネットワークポートの共有を使用した場合に、SP とホスト OS 間のチップ内接続がサポートされない |
| | 問題: サイドバンドネットワークポートの共有を設定した場合、サービスプロセッサとホスト OS 間のチップ内接続はオンボードのホストギガビット Ethernet コントローラによりサポートされません。 |
| | 影響を受けるソフトウェア: <ul style="list-style-type: none">• Release 1.0 |
| | 対処方法: 送信元ターゲットと宛先ターゲット間のトラフィックの転送に、L2 ブリッジング/スイッチングの代わりに別のポートまたは経路を使用します。 |
| 6795975 | 後続の ILOM セッションの KVMS インタフェースが機能しないことがある |
| | 問題: 同じサービスプロセッサに対して ILOM リモートコンソールのセッションが複数開いている場合、追加セッションのキーボードインタフェースが正常に動作しないことがあります。最初のセッションのキーボードインタフェースは影響を受けません。 |
| | 影響を受けるソフトウェア: <ul style="list-style-type: none">• Release 1.0 |
| | 対処方法: <ul style="list-style-type: none">• 「ILOM リモートコンソール (ILOM Remote Console)」ダイアログでダブルクリックしてマウスを有効にしてから、マウスを動かす。 または <ul style="list-style-type: none">• ILOM リモートコンソールのメニューバーで「デバイス (Devices)」->「マウス (Mouse)」を選択し、次にマウスを動かす。 |

表 5 ILOM の既知の未解決の問題 (続き)

| CR | 説明 |
|---------|--|
| 6806444 | <p>CD-ROM イメージやフロッピーイメージをリダイレクトするときに、Windows クライアントで ILOM リモートコンソールが停止することがある</p> <p>問題: Windows クライアントを使用して ILOM リモートコンソールから CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトした場合、ILOM リモートコンソールが反応しないことがあります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • クライアントシステムにインストールされている Windows オペレーティングシステム • ILOM 2.0 以降および ILOM 3.0 以降 • ILOM リモートコンソール • Java 開発キット (JDK) 1.6.0_07 • Release 1.0 <p>対処方法: Windows クライアントで「ILOM リモートコンソール (ILOM Remote Console)」ウィンドウを閉じ、次の対処方法のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Linux または Solaris クライアントを使用して ILOM リモートコンソールを起動し、CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトする。 <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows、Solaris、または Linux のシリアル端末、あるいは SSH クライアントを使用して ILOM 3.0 内の Storage Redirection ユーティリティを起動し、CD-ROM イメージまたはフロッピーイメージをリダイレクトする。 <p>注 – Storage Redirection ユーティリティは、ILOM 3.0 でのみ使用できるコマンド行ユーティリティです。Storage Redirection ユーティリティの使用方法は、 http://docs.sun.com/app/docs/prod/int.lights.mgr30#hic にある ILOM 3.0 の各種マニュアルを参照してください。</p> |

表 5 ILOM の既知の未解決の問題 (続き)

| CR | 説明 |
|---------|---|
| 6923903 | <p>SP の復元が部分的に成功し、エラーがログに記録される</p> <p>問題: シリアルコンソールを使用している場合、シリアルコンソールに関連するプロパティを復元できないので、次のようなメッセージが表示されます。 Config restore: Unable to restore property '/SP/serial/host/commitpending' Config restore: Unable to restore property '/SP/serial/external' このようなプロパティを復元できなかったため部分的なエラーになり、その結果として部分的なエラーに関する前述のメッセージが表示されます。これは不具合ではありません。</p> <p>影響を受けるソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Release 1.0 <p>対処方法: シリアルコンソールからログアウトして、restore を再度実行してください。</p> |
| 6928047 | <p>IPMIflash を使用して ILOM SP イメージをアップグレードしたとき、BIOS が更新されない</p> <p>問題: IPMIflash を使用し、遅延 BIOS オプションをオンにして ILOM サービスプロセッサ (SP) イメージをアップグレードしたとき、BIOS が更新されません。サーバーの電源を再投入すると BIOS イメージが更新されるはずですが、更新されていません。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle Enterprise Linux (OEL) 5.4 • Release 1.0 <p>対処方法: 電源ボタンを使用してサーバーの電源を再投入する代わりに、power-cycle コマンドを使用してください。BIOS が確実に更新されます。 たとえば、次のいずれかのコマンドを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ILOM Web インタフェース: 「リモート制御 (Remote Control)」 -> 「リモート電源制御 (Remote Power Control)」 -> 「電源再投入 (Power Cycle)」 • IPMI: ipmitool power cycle |

表 5 ILOM の既知の未解決の問題 (続き)

| CR | 説明 |
|---------|---|
| 6928567 | JRE 1.6.0 U14、U15、および U16 を使用して ILOM リモートコンソールを起動できない |
| | 問題: Web から Java Runtime Environment (JRE) の一部のビルドを使用して ILOM リモートコンソールを起動しようとした場合、「アプリケーションを起動できません」というエラーが返されます。 |
| | 影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • JRE 1.6.0 U14、U15、および U16 を使用するすべてのオペレーティングシステム • Release 1.0 |
| | 対処方法: JRE 1.6.0 U17 以降にアップグレードしてください。 |
| 6936585 | 電源を入れたままストレージドライブを取り外し、または挿入後に、ILOM CLI が誤った HDD PRSNT の値を表示する |
| | 問題: 電源を入れたままの取り外し、または挿入後に、HDD PRSNT センサステータスの更新に矛盾が生じます。センサステータスは即座に更新される場合もあれば、即座に更新されない場合もあります。 |
| | 影響を受けるハードウェアおよびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4170 M2 サーバー • Release 1.0 |
| | 対処方法: ILOM Web インタフェースコンポーネントページを更新するか、CLI で /SYS/DBP を表示して、HDD PRSNT センサステータスを強制的に更新することができます。CLI の show コマンドを使用するには、次のように入力します。 -> show /SYS/DBP その後次の CLI コマンドを入力すると、センサーの正しいステータスが返されます。 -> show /SYS/DBP/HDD7/PRSNT |

仮想マシンソフトウェアの既知の問題

表 6 仮想マシンソフトウェアの既知の未解決の問題

| CR | 説明 |
|---------|---|
| 6869812 | <p>VMware ESXi 4.0 Update 1 をインストールしたあと、ローカルストレージドライブが表示されない</p> <p>問題: Sun Fire X4170 M2 または X4270 M2 サーバーに、ローカルストレージドライブに接続された PCI-Express SAS LSI Controller (SG-SAS6-INT-Z) がある場合、VMware ESXi 4.0 Update 1 をインストールしたあとにこのローカルストレージドライブが表示されません。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • VMware ESXi 4.0 Update 1 • Release 1.0 <p>対処方法: ESXi をインストールしたあと、次の手順に従ってローカルストレージドライブをストレージインベントリに追加します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Virtual Infrastructure Client を使用して、選択したデータセンターに ESXi ホストを追加します。 2. 手順 1 で追加した ESXi ホストを選択して、「構成 (Configuration)」タブをクリックします。 3. ハードウェアボックス (画面の左上) で、「ストレージ (Storage)」を選択します。 4. 画面の右上で、「ストレージの追加... (Add Storage...)」リンクをクリックします。 5. 「ディスク/LUN ストレージタイプ (Disk/LUN Storage Type)」が選択されていることを確認し、「次へ (Next)」をクリックします。 6. ローカルストレージドライブに対応する vmhba エントリを強調表示し、「次へ (Next)」をクリックします。 7. 「空き領域を使用 (Use free space)」エントリを選択して、「次へ (Next)」をクリックします。 8. データストア名 (local_storage など) を作成して、「次へ (Next)」をクリックします。 9. 必要に応じて最大ファイルサイズを調整し、「次へ (Next)」をクリックします。 10. 提案されたディスクレイアウトを確認し、「完了 (Finish)」をクリックします。 <p>これでローカル仮想マシンファイルシステム (Virtual Machine File System、VMFS) データストアが使用可能になります。</p> |

表 6 仮想マシンソフトウェアの既知の未解決の問題 (続き)

| CR | 説明 |
|---------|--|
| 6927196 | <p>Oracle Virtual Machine Manager 2.2 のインストールが一部の 6 コア CPU 構成で失敗する</p> <p>問題: Oracle Virtual Machine (VM) Manager 2.2 を 6 コア CPU を備えた Sun Fire X4170 M2 または X4270 M2 サーバーにインストールすると、インストールが失敗し、「データベースが使用できません」というメッセージを表示して終了する場合があります。</p> <p>影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステム、およびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー • Oracle VM Manager 2.2 • Release 1.0 <p>対処方法 1: Oracle VM Manager に対して Oracle XE 以外のデータベースを使用してください。Oracle VM Manager 2.2 で別のデータベースを使用するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インストールスクリプトを実行して、オプション「2 - Oracle VM Manager のアンインストール (Uninstall Oracle VM Manager)」を選択します。 2. アンインストールを確認します。 3. 別のバージョンの Oracle データベースをインストールします。 4. インストールスクリプトを再実行して、オプション「1 - Oracle VM Manager のインストール (Install Oracle VM Manager)」を選択します。 5. オプション「2 - ネットワーク内に既存の Oracle データベースを使用 (Use an existing Oracle database in my network)」を選択します。 6. Oracle データベースのアクセス情報を入力します。 7. Oracle VM Manager の設定を完了します。 <p>対処方法 2: この問題用のパッチを適用します (入手可能かどうか確認してください)。パッチをインストールするには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Oracle VM Manager の ISO イメージまたはメディアをたとえば次のようにマウントします。/mnt/<iso_mount_point> 2. 次のように、一時作業ディレクトリを作成して、ISO の内容をコピーします。 # mkdir <working_dir> # cp -pR /mnt/<iso_mount_point>/* <working_dir>/ 3. この問題用のインストーラパッチをダウンロードして、パッチ runInstaller.sh を適用します。 # cd <working_dir> # wget http://oss.oracle.com/oraclevm/manager/patch/installer-bugNNNNNNNN.patch # patch runInstaller.sh installer-bugNNNNNNNN.patch 4. インストールを開始します。 # sh ./runInstaller <p>注 - すでに Oracle VM Manager のインストールを試みて前述のエラーが発生している場合は、インストールオプション 2 を選択して更新を有効にする必要があります。</p> |

Oracle、Red Hat、および SUSE Linux の既知の問題

表 7 Oracle、Red Hat、および SUSE Linux の既知の未解決の問題

| CR | 説明 |
|--------------------|--|
| 6808230 6894153 | <p>SATA ドライブとともに ICH10 オンボード HBA を使用した場合、ストレージドライブの LED が正しく点灯しない</p> <p>問題: RAID PCIe カードを追加せずに内蔵 ICH10 SATA コントローラを搭載した Sun Fire X4470 サーバーでは、ディスクドライブ障害と取り外し可能を示す各 LED が HDD スロットにて正しく点灯しません。</p> <p>影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステム、およびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Sun Fire X4170 M2 サーバー • SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 • Release 1.0 <p>対処方法: この問題は、Novell から入手可能な SLE(S/D) 11 カーネルアップデートで対処済みです。Yast Online Updater を使用したアップデートの取得については、『Novell Documentation Administration Guide』を参照してください。または、http://download.novell.com/patch/finder/ にある Novell Patch Finder を使用してください。</p> |
| 6875599 | <p>PCI-e AER ドライバによって必要以上にエラーメッセージが発生する場合がある</p> <p>問題: SLES 11 の PCI-e AER ドライバによって、ハードウェアエラーに関する不完全な情報を含むログメッセージが必要以上に発生する場合があります。</p> <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 • Release 1.0 <p>対処方法: この問題は、Novell から入手可能な SLE(S/D) 11 カーネルアップデートで対処済みです。Yast Online Updater を使用したアップデートの取得については、『Novell Documentation Administration Guide』を参照してください。または、http://download.novell.com/patch/finder/ にある Novell Patch Finder を使用してください。</p> |

表 7 Oracle、Red Hat、および SUSE Linux の既知の未解決の問題 (続き)

| CR | 説明 |
|---------|--|
| 6904919 | Infiniband 用の mlx4_core ドライバの読み込みに失敗する、または規定値が単一ピン割り込みになる |
| | 問題: Infiniband の IO デバイスが 16 個以上の CPU を備えたシステム上で mlx4_core ドライバと MSI-X 割り込みを使用すると、ドライバが読み込めない、または IO-APIC 割り込みを使用してのみ読み込める場合があります。 |
| | 影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 • Release 1.0 |
| | 対処方法: この問題は、Novell から入手可能な SLE(S/D) 11 カーネルおよび OFED パッケージのアップデートで対処済みです。Yast Online Updater を使用したアップデートの取得については、『Novell Documentation Administration Guide』を参照してください。または、 http://download.novell.com/patch/finder/ にある Novell Patch Finder を使用してください。 |
| 6907462 | EHCA ドライバの読み込みに関するエラーメッセージが記録される |
| | 問題: OFED パッケージグループがインストールされている場合、InfiniBand EHCA ドライバの読み込みに関する良性のエラーメッセージが生成されます。このエラーが記録されるのは、サポートされている InfiniBand の IO デバイスが EHCA ドライバを使用しないためです。 |
| | 影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 • Release 1.0 |
| | 対処方法: サポートされている InfiniBand デバイスは、mlx4_core デバイスドライバを使用します。EHCA ドライバに関するエラーメッセージを無視するか、構成ファイル /etc/infiniband/openib.conf を編集して EHCA_LOAD=yes を EHCA_LOAD=no に変更し、EHCA ドライバの自動読み込みを無効にしてください。 |

表 7 Oracle、Red Hat、および SUSE Linux の既知の未解決の問題 (続き)

| CR | 説明 |
|---------|--|
| 6907463 | SLES 11 でのサブネットマネージャの起動スクリプトのエラー |
| | 問題: SLES11 がサブネットマネージャの起動スクリプト opensmd を実行できません。 |
| | 影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 11 • Release 1.0 |
| | 対処方法: この問題は、Novell から入手可能な SLE(S/D) 11 カーネルおよび OFED パッケージのアップデートで対処済みです。Yast Online Updater を使用したアップデートの取得については、『Novell Documentation Administration Guide』を参照してください。または、 http://download.novell.com/patch/finder/ にある Novell Patch Finder を使用してください。 |
| 6915768 | システムのリブート中にカーネルパニックが発生する場合がある |
| | 問題: システムのウォームリブート中に、カーネルパニック __cpufreq_governor が断続的に発生する場合があります。 |
| | 影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> • Oracle Enterprise Linux (OEL) 5.4 • Red Hat Linux (RHEL) 5.4 • Release 1.0 |
| | 対処方法: この問題を解決するためのパッチが発行されています。次の URL からパッチをダウンロードできます。 https://bugzilla.redhat.com/attachment.cgi?id=336296&action=diff |

Windows の既知の問題

表 8 Windows の既知の未解決の問題

| CR | 説明 |
|---------|--|
| 6879304 | ILOM Power Management で電力を制限している場合、Windows Server 2008 R2 によってシステムイベントログに警告メッセージが生成される |
| | 問題: ILOM Power Management 機能で電力を制限している場合、Windows Server 2008 R2 オペレーティングシステムによって、プロセッサが制限されていることをユーザーに知らせる警告メッセージがシステムイベントログに生成されます。 イベントの例: The Speed of Processor xx in group x is being limited by system firmware. The processor has been in this reduced performance state for xxxx seconds since last report. |
| | 影響を受けるハードウェア、オペレーティングシステム、およびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none">• Power Management をサポートしているすべての Sun サーバー• Windows Server 2008 R2• Release 1.0 |
| | 対処方法: 対処は必要ありません。このような警告メッセージは予期されるイベントであり、問題を示すものではありません。 |

Oracle Hardware Installation Assistant の既知の問題

注 – Oracle Hardware Installation Assistant (OHIA) は、以前は Sun Installation Assistant と呼ばれていました。

表 9 Oracle Hardware Installation Assistant (OHIA) の既知の未解決の問題

| CR | 説明 |
|---------|---|
| 6835303 | Red Hat オペレーティングシステムの ISO イメージを NFS を使用してインストールする場合に、OHIA インストールが正しく機能しない |
| | 問題: NFS (Network File System) サーバーを使用してエクスポートされている ISO イメージから Red Hat オペレーティングシステムをインストールする方法を選択した場合は、Red Hat インストールに関するプロファイルがインストールに伝達されません。この結果、次の動作が生じます。 <ul style="list-style-type: none">• Anaconda が、インストールタイプ (デスクトップ、クライアント、サーバー、または最小) の入力をユーザーに求めます。• 個々のパッケージのインストールタイプに基づく事前選択が行われず、ユーザーが手動で選択する必要があります。 |
| | 影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア: <ul style="list-style-type: none">• Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 5.x• Releases 1.0 |
| | 対処方法: OHIA を使用して Red Hat オペレーティングシステムをインストールする場合は、NFS を使用してエクスポートされた ISO イメージを使用しないでください。 |

表 9 Oracle Hardware Installation Assistant (OHIA) の既知の未解決の問題 (続き)

| CR | 説明 |
|---------|--|
| 6861956 | OHIA が NFS を使用して OEL、RHEL、または SLES の ISO イメージをインストールできない |
| | <p>問題:</p> <p>ISO イメージからネットワーク (NFS、FTP、HTTP) 経由での任意の Linux オペレーティングシステム (OEL 5.4、RHEL 5.4、SLES10 SP3、および SLES11) のインストールは OHIA でサポートされなくなりました。OHIA を使用して Linux OS のネットワークインストールを実行するには、拡張イメージを使用する必要があります。</p> <p>注 – OHIA バージョン 2.4.x.x 以降、Linux OS の ISO イメージを使用したネットワークインストールはサポートされなくなりました。</p> |
| | <p>影響を受けるオペレーティングシステムおよびソフトウェア:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Oracle Enterprise Linux (OEL) 5.4、Red Hat Linux (REL) 5.4、SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 10 Service Pack 3、および SLES 11 オペレーティングシステム • Release 1.0 |
| | <p>対処方法:</p> <p>NFS、FTP、または HTTP 経由で拡張イメージを使用してください。</p> |

マニュアルの既知の問題

表 10 マニュアルの既知の未解決の問題

| CR | 説明 |
|---------|---|
| CR 番号なし | 説明: 記載されている HBA が利用できない |
| | 問題: <ul style="list-style-type: none"> Sun Storage 6 Gb/s SAS PCIe RAID HBA (SG-SAS6-R-EXT-Z) は、『Windows オペレーティングシステムの Sun Fire X4170 M2 および X4270 M2 サーバー設置マニュアル (821-1626-10)』および『Sun Fire X4170 M2 Server Service Manual (821-821-0486-10)』の中で利用可能なオプションとして記載されています。このホストバスアダプタ (Host Bus Adapter、HBA) は、Sun Fire X4170 M2 または X4270 M2 サーバーには利用できません。 |
| | 影響を受けるソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> Release 1.0 |
| | 対処方法: 該当なし。 |
| CR 番号なし | マニュアルの URL が利用できない |
| | 問題: Sun Fire X4270 M2 サーバーの各種マニュアルへの URL (http://docs.sun.com/app/docs/prod/sf.x4270m2#hic) からは、本マニュアルの発行時点では、このサーバーのマニュアルにアクセスできません。Sun Fire X4270 M2 サーバーのマニュアルは後日利用可能になります。 |
| | 影響を受けるソフトウェア: <ul style="list-style-type: none"> Release 1.0 |
| | 対処方法: 該当なし。 |

